



認定こども園の建設で保育所廃止？

村は来年度からの事業で八積駅周辺に認定こども園を建設しようとしています。認定こども園は幼稚園と保育所の機能を併せ持つものです。しかし、幼稚園が欲しいとの声には学校法人による開園か、通園児に対する新たな補助で対応すべきです。保育所の統廃合は問題が大きすぎます。

住民不在の行政姿勢

その第一は、3カ所ある保育所が廃止されることです。小高後援会ニュース第4号は現在の保育所を統合し、認定こども園の建設計画を打ち出しています。

寝耳に水の話で、保護者や地域の方々に十分な説明もないまま、現在の保育園を廃止するという行政姿勢はあってはならないものです。保育所が遠くなれば送り迎えが大変になります。仮に老朽化や津波の恐れがあるとしてもです。

それらは、それぞれ別の対策を打てばよいのです。石井村長時代の一松保育所の津波対策は、隣の一松小学校の屋上に避難することで対応してきました。それが危険というなら小学校の移転も検討しているのでしょうか。



マンモス化で保育の質低下？

問題の第二は、現在3保育所の定員は、合計360人です。(4月の入所児童数は315人)です。こんな巨大な保育所できめ細かな保育ができるとは到底思えません。保育の質や低年齢期における子ども

もの幸せな成長保証がなによりも求められている保育行政ですが、この点でも大きな懸念が生じます。

一旦凍結して話し合いを

三つ目の問題は、保育所運営は現在村の直営ですが、指定管理者制度などで民間委託となるのではないかと不安です。

保育所の運営費は、8割が人件費だと言われます。ここを削減したいので、労働条件の悪い民間委託に切り替えようとする動きが全国的に拡大しています。その結果、保育士が使い捨てにされ、保育のノウハウが蓄積されない状況が生まれています。忙しすぎて子ども一人ひとりに目が届かなくなり、子どもが保育所に行きたがらない例が生まれています。村の保育所がそんなことになっては子どもも親も不幸なことです。子どもたちのために一生懸命働いている保育士も犠牲になります。

このようなことから認定こども園計画は、一旦凍結して、保護者や地域の方々に十分説明し、今後の施設展開のあり方を住民参加で決めるべきです。

小高村政による住民不在の行政を見すごすわけにはいきません。

石井としおの保育幼稚園政策

保育所は、身近に適正規模で耐震リフォームで施設の長寿命化
 保育の質を低下させる民間委託はさせない
 幼稚園通園に補助新設

学校給食センター建設で自校給食廃止！ 保育所調理も統合のターゲットか？

村は今年度当初予算に277万4千円を計上し、4年間で総事業費6億4187万円をかけて学校給食センターの建設をすることになっています。

石井村政は自校方式堅持

石井としお村長時代は学校給食を民間委託せずに、自校方式を守ってきました。その理由は委託（下請け）では子どもとの関係が薄くなり、センター方式はさらに調理してから子どもの口に入るまで2時間が常識なので良くないと考え、民間委託や給食センター化を勧める職員の提案を認めませんでした。

コスト削減薄く効果なし

しかし、すでに村の小中学校は残念なことに民間委託されてしまいました。それでも幸い、自校調理方式は、維持しています。

学校給食は安全とおいしさこそ重要

自校方式によって調理員と子どもや先生は

お互いの顔が見え、とても評判が良いものです。しかも中学校の校舎は新築したばかり、小学校の調理室も問題なく使われています。それなのに学校から離



れて子どもたちの顔が見えない、声が聞こえないところで大量一括調理する必要があるのでしょうか。

調理後の配達は確実に味を低下させます。すでに学校給食は民間委託されているので、コスト削減の効果も望めません。

保育所給食こそ同じ場所で

6億円の建設費はムダな投資です。そこで考えられるのが保育所の給食調理も新設学校給食センターで行うことになるのではないかということです。

しかし、それこそ問題です。ゼロ歳児を始め幼い子どもの給食ですので、身近なところで顔を思い浮かべ、一人ひとりの体調に配慮できる給食を提供することができなくなります。学校給食センター

をきっかけに保育所の調理を統合するのは、絶対にやってはいけないことです。そもそも

今年度から事業化される給食センターがどのような内容なのか村民には知らされていません。住民無視の村政は、放置できません。



方式	自校方式	センター方式
食育	作る側と食べる側のコミュニケーションがとれる。	児童生徒が調理過程に接する機会が少ない。
献立	調理数が少ないために、手作り等、多様な献立が提供できる。	大量一括調理のため、きめ細かさ欠ける。
適温提供	献立にあわせて適温の提供ができる。	配送距離にもよるが、適温の確保がむずかしい。
衛生管理	調理から喫食までの時間が短いので衛生管理がしやすい。	調理から喫食までの時間がかかるために衛生管理がしにくい。

やっぱり 石井さんです

税金のムダ遣いはダメ！

またまた、石井さんに対する攻撃が始まりました。一部の議員さんを中心とした方々が「ながいき瓦版」というニュースを発行し、4年前とまったく同じ内容で、繰り返し攻撃してきています。

事実関係を丁寧に説明することは、政治家にとって、必要なことだと思いますが、自らの立場を正当化することで、選挙戦を有利に運ぼうとする態度がありありで、なんともやりきれない気がします。

電話調査と称して、現職の小高さんを売り込むような内容の電話をかけたり、駅前熊本地震に対する義援金を募った内容を伝える、どでかいポスターを他のポスターの上から張り出すような傲慢な態度の人には、村政を任せられません。

一般の人が一生かかかっても手に入れることが難しい最高級ワンボックスカーを乗り回すことを正当化するような人を



支持するわけにはいきません。今回の選挙は、やっぱり石井さんに頑張ってもらってほしい

他のポスターの上から・・・いいと思います。
(八積・Tさん)

長生村を残して！

今回の村長選挙は、今までにない大切な選挙です。石井さんのように村民のために尽くしてくれる方が、本当に必要です。この長生村を後世に残してください。合併では、それができなくなります。みんなが安心して住みやすい村を目指して、頑張ってください。村民の一人として心から応援しています。合併絶対反対です。



(一松・Sさん)

保育所統合 止めて！

保育所統合？そんなの聞いてないよ！！うそでしょ？そんなの考えるのは子育てが終わった人でしょ！

八積に作ったら今より遠くなるでしょ。時間がかかるよ。送るのに朝の15分20分がどれくらい勤め人には貴重で大変か分かってないよ。この計画を考えて賛成しているのは建設予定地に近い人だけでしょ！ふざけんなって言いたい！でも統合しますよ、どうですか聞いてこないから文句言えないじゃないの。

八積に作るなら八積保育所だけ移転すればいい。それだって親の意見聞かなきゃだめだよ。

役場は何考えてんのよう！！石井さん当選して統合止めて！！

(一松保育所利用の保護者より)

村民の疑問に答えます

問 幸福の科学との関係についてお伺いします。

答 私自身は、幸福の科学とは全く関係ありません。幸福実現党の政策をみますと 日本への米軍基地には核の持ち込みを容認し、自衛のための核装備を進める。 憲法9条を改正し、防衛費を倍増する。 原発の推進、などを掲げていて、私の考え方とは全く違います。

問 小高村長は、42もの団体推薦を受けていますが、どう思われますか。

答 ある団体の会員から「自分には全く相談がなかった。役員のみで決めたようだ。」との話を聞きました。多分、代表者の考えのみで、推薦を決めているようです。また、税金から補助金を受けている団体が特定の候補を推薦するのはどう考えてもおかしいと思います。また、補助金が交付されている団体に推薦を求めたり、逆に団体から推薦されたりといった関係になりますと、「公務員の地位利用」や税金の私物化にもつながりかねない問題で、私は、法律上も倫理的にも大いに問題があると思います。

3.11福島の実地を訪問

2011年3月11日に東北地方を襲った地震と津波災害、そして原発事故により多くの方々が犠牲になられたことを忘れてはいけないと思い、4月13日、桜井南相馬市長を訪ね、現状と復旧状態についてお話しをお聞きしました。そして、いまだ原発事故で線量が高いので人が住めない浪江町にも入り、悲惨な現状を見てきました。



桜井市長 津波対策は6.3メートルの防波堤を1メートルかさ上げする工事が進行中です。3.11地震津波災害前の人口は7万1500人。現在5万7000人です。津波で亡くなられた方は630人で現在、原発の周囲20キロ圏内には居住できません。農地は



海水に浸かり耕作ができていません。原発被害による子ども達の甲状腺ガンの発症はいまのところありません。家を流された市民は海岸から4kmの内陸に21団地を作り、生活を再建しつつあります。家屋の建築費は、放射能の影響と対策費用として国から300万円の補助金が出ています。除染の対象は農地を含めて住宅と道路から20メートルまでで国から全てお金がでます。山林は除染の対象外です。市の予算は1千億円ですが、内500億円が除染費用の予算です。

(桜井市長談)

浪江町は原発から20キロ圏内は線量が高く、人は居住できないので無人の町でした。避難された専業農家の



空き家に行き玄関で放射線量を計測したところ0.4マイクロシーベルト、裏山に入ると、4.4マイクロシーベルトでした。杉の木はセシウムが入り込み、放射能が抜けないので数値が高いとのこと。玄関と裏山はわずか30メートルなのに、線量は10倍の数値でした。



梨畑は栽培する農家が避難してしまっているので剪定することもなく真上に枝が伸び、花が寂しく咲いて

いました。夜は現地の友人と居酒屋で交流したところ、入り口には「満員御礼」の札がさげられていました。



毎日7千人もの方々が除染の仕事で働き、事件が多発しているとのこと。案内して下さった友人は「原発事故で生まれ育った土地を離れ、親戚、友人とバラバラにされ避難生活をしているが、友人がすぐにできるわけでもなく、とても寂しく悔しい。」とのことでした。

今回の訪問で改めて災害に強い村、原発に頼らない自然再生エネルギーの国造りが必要であると思い、帰途に着きました。途中、熊本地震の発生をラジオで聞きました。亡くなられた方々、被災された皆さまに謹んでお見舞い申し上げます。

演説会のお知らせ
5月22日(午後2時)

長生村文化会館ホール

石井としおの決意

元東京都国立市長上原公子さんによる、
これからの「いき生き元気・ながいきの
村づくり」の講演

沖縄エイサー踊り太鼓

来賓各位の励ましの言葉

入場無料